



運 営 協 議 会 だ よ り

第7号

代表 近藤 弘文 校長 竹村 郷

第5回地域協働学校運営協議会が開催されましたので、議事の概要をご報告します。

■日 時 令和元年12月10日 17:00～18:20

■場 所 落合第六小学校 視聴覚室

■司 会 副校長 庖刀 由利子

【議題】

来年度からの落六小の教育について、教員に投げかける予定ですので、資料に沿ってご説明します。

資料内容は、「経済産業省の掲げる STEAM 教育、文科省の掲げる Society5.0。今後の日本を支える子どもたちに求められる、社会で必要とされる本当の学力を身に付けるために、落六小ではどうすれば、実現できるのか…」

【意見交換】

- ・政府では 2020 年までに、小中学生全生徒に 1 台、タブレット端末が行き渡るよう、環境を整備する予定だが、使い方が大切ではないか。ツールとして、どのように使っていくのか。
- ・何のために使うのか？－「自調自考」のため。昔は本で調べていたことを、今はインターネットで調べることが主。どの本に載っているかも、インターネットで調べることができる。
- ・タブレット端末を使い、まとめ作業や発表用のパワーポイントを作成するなど、いろいろと活用できる。
- ・これからの世の中の動きに合った方法で、学んでいく必要がある。今後、環境が整っていけば、電子図書なども進んでいくのではないか。東京と違い、地方では図書館も限られているし、電子化が進むことは便利になると思う。著作権の問題で、出典を記載することが必要になると思う。
- ・インターネットで調べると、本で調べていた時よりも調べた内容が浅く発展が少なく、それ以上深く学ぼうという姿勢が見られない傾向がある。自分の考え・経験にならず、オリジナリティーがなくなってしまう。
- ・大学生においては、学力や知識があっても、面接で落とされてしまう場合がある。社会では、リーダーシップやコミュニケーション能力・協調性など、さまざまな能力が必要とされる。人間関係も大切である。
- ・世の中に出た時には、メンタルの強さも必要だ。できないことを助けてもらうなど、その時々合ったコミュニケーションを取る必要がある。すべてを 1 人で行うことは不可能で、チームなどで対応することも、時には必要。
- ・日本の子どもたちは、読解力も含めて学力が低下している。博士号を取る学生も減っている。
- ・自己肯定感の低い子どもが多いので、できることで自分に自信を持たせることが大切。
- ・人と人の横の繋がりは、年をとっても大切だと思う。孤立感を持たないようにする。
- ・自分が小学生の頃、勉強を押し付けず、自然との触れ合いや心を豊かにするような活動を積極的に行う先生がいて、後に子どもたちも学力が伸びてきたというのを知っている。いろいろな経験が、子どもたちの学力を伸ばすことになるのだと思う。
- ・異年齢と触れ合うことで、いろいろな人がいるということも学べる。おちろく DASH などの取り組みは大切だ。

【次回の予定】

1月14日(火) 17:00～ 落合第六小学校 視聴覚室にて

【出席者】

近藤 弘文、秋元 宗司、原田 榮、橋田 稔、亀井 治子、篠田 邦子、
鈴木 正実(西落合図書館 館長)、水上 真理(書記兼務)、
竹村 郷、庖刀 由利子、大森 伸保(教育支援課地域家庭教育係)